

## 地方財政の仕組みを知ろう！

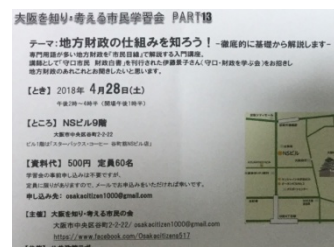
写真のチラシに誘われて、標題がテーマの「大阪を知り・考える市民学習会 PART13」に参加した。大学で「地方財政」を35年にわたり講義してきたのに、なぜ「入門講座」なるものに顔を出したのか。できるだけ早く、大阪の諸問題を知りたいこと、守口の財政白書について関心があったことによる。こんな固いテーマなので少人数の学習会だと思っていたら、想定外の人が参加して会場は満席だった。若い人の参加も多く、地方財政を調査・研究する一人として、元気をもらうことができた。

講師は写真の『守口市民財政白書』執筆者、伊藤景子さんと初村尤而さん。初村さんとは昔から顔なじみだ。伊藤さんとは、どこかでお会いした記憶があった。元朝日新聞記者ということで、名古屋本社に勤務された頃に万博問題などで、お目にかかったことが。伊藤さんは退職後、地元で「守口・財政を学ぶ会」を立ち上げ、財政白書づくりに取り組んだ。きっかけは北海道・夕張の財政破たんであり、守口も「財政破たん」瀬戸際に立っていた。

受付で『守口市民財政白書』をワンコインで手に入れた。冒頭「白書を手に取ってくださったあなたへ」から。「納税者として市民として、市の財政がどうなっているのか知りたい、わかりたいと思うけれど、財政なんてチョー難しくて自分にはとても無理。市の広報を読んでもちんぷんかんぷん…。そんなごくフツウの市民であるメンバーが財政資料や数字と格闘し、フツウの人の目線で読み解いたのがこの白書です。」

目次は第1章 座談会「守口に愛をこめて」 第2章 守口財政ワールドへの招待（歴史）9年前、守口は地獄を見た！ 第3章 守口財政ワールドへの招待（各論）今はええのか悪いのか？ 第4章 指標で測る守口財政ワールド 第5章 資料編。この目次からも、フツウの財政白書とは違うユニークさを感じる。それ以上に目を引いたのが、カラー刷りで、斬新なデザインの冊子であり、読みやすさが際立つ。これがなんとワンコインとは、まさに「お値打ち」だ。2016年11月の発行から3刷。またレポートしたい。

会場の机には、大阪市の平成14年度から28年度までのA3版「決算カード」「分析用紙」15枚が鉛筆・消しゴムと一緒におかれていた。参加者が黙々と、決算カードの細かい数字を分析用紙に書き写した。こんな熱心な風景に感心しながら、私も久しぶりに書き写した。急用で途中退席したが、こんな発言をしたかった。昔を思い起こして、大阪市の財政分析を今日学んだ「守口方式」を進めていければと。



(2018年4月30日)